

スキージーの選び方

スキージーには様々な種類がありますが、選択の基準は下記の4点です。

- ・インクの粘度に合わせる
- ・被印刷物の平滑度合い（凹凸）を観察する
- ・印刷柄の精細度に合わせる
- ・印圧（スキージーを垂直に押す力）に合わせる

いずれの点においても、重要なポイントは、印刷時にスキージーの印圧によって、版が被印刷物に接する時点（インクが版を通過する時点）でのスキージーの傾斜角によって、落ちるインクの量が変わるといえる点です。

スキージー・ブレード（ゴム）が硬い時は、印圧によって図Ⅰの様に「しなる」とすると、柔らかいスキージ・ブレードで同じ印圧をかけた場合には図Ⅱの様に「しなり」が大きくなります。

又、スキージブレードには厚さが違う物が在りますが、同じ硬さのブレードの場合、同じ印圧をかけると当然薄いブレードの方が大きく「しなり」ます。

同じ人が違う硬さ・厚さのスキージを使用した場合に印刷結果に微妙な違いが出る理由は、この「しなり」の違いにあります（人によっての印圧の違いに加え、スキージを持つ角度が異なるため、しなりに違いが生じます）。

一般的に、インクの粘度は

プラスチックインク > ラバー型水性バインダー > アンカー型水性バインダー

ですので、粘度が低いほど、インクの落ちる量が多いと考えてスキージ・ブレードを選択して下さい。

材質については、様々な樹脂製がありますが、より耐久性の良いものを選びます。

特に、溶剤系のインクを使う場合は勿論の事、プラスチックインクを使う場合にスキー

ジ・ブレードの洗浄にシンナー等、溶剤系のものを使用する場合、スキージブレードの耐溶剤性に劣る樹脂は、次第に溶剤分を吸収してしまい「硬化する」「ボロボロに碎けてくる」など劣化が早くなる傾向が在ります。

【特殊なスキージー】

図イの様に、ゴムの先端が尖った形をしているものを「剣スキージー」と呼びます。

これは同じ硬さで、よりインクを多く落としたい場合で、写真製版の感光乳剤部分に極力ダメージを与えたくない場合に使用します。主に「クリームハンダ印刷」用です。

図ロ・ハの様に、硬さの違う樹脂を重ねたものを「2層・3層スキージー」と呼びます。

赤色部分のゴムが、他の部分より硬い樹脂でできており、ゴムの横方向のねじれが生じないためのもので、一般には自動機・半自動機の様には、人力以上の大きな印圧がかかる際に使用します。

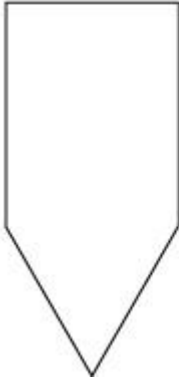
図 I



図 II



図イ



図ロ



図ハ



*スキーズによって色は違います